研究課題　長崎市中「本石灰町乙名本山家文書」の研究資源化に向けた調査研究

研究経費　五〇万円（前年度よりの繰越分）

研究組織

　研究代表者　　　藤本健太郎（長崎外国語大学）

　所内共同研究者　松井洋子・荒木裕行

　所外共同研究者　木村直樹（長崎大学）・吉岡誠也（東京大学地震火山史料連携研究機構）・赤瀬浩（長崎市長崎学研究所）・德永宏（長崎市長崎学研究所）

研究の概要

（１）課題の概要

　本石灰町（もとしっくいまち）は長崎市中八〇か町のうち、丸山遊廓を構成した丸山町と隣接する町である。本石灰町の乙名職は一八世紀後期以降、本山家が六代にわたり襲職し明治に至った。本山家で保管していた古文書史料のうち、約一一五〇点が「本石灰町乙名本山家文書」として現存している。「本石灰町乙名本山家文書」は、近世長崎の町乙名を中心とした都市運営の実態を知る上で貴重な記述が多数確認されており、近世都市史研究にも研究成果を還元できる重要な史料群である。  
　しかし、当該史料群の収蔵機関は、現在東京大学史料編纂所（所蔵分と寄託分）と長崎歴史文化博物館（長崎県立長崎図書館寄贈分、長崎市長崎学研究所購入分を収蔵）の二か所に分散しており、両機関に収蔵されている史料を本山家に由来する史料群として、包括的に整理・把握できていない状況にある。  
　本研究では、両機関に収蔵されている史料群の概要把握を進めるとともに、史料1点ごとの概要掲載を含む、詳細な総合目録を作成することで「本石灰町乙名本山家文書」の研究資源としての活用に努めたい。また、その史料群の特性を踏まえた共同研究も実施する。

（２）研究の成果

　二〇二〇～二〇二一年度の目録記述作業と史料調査によって、三カ所に分散した本山家の文書、総点数一四六〇点余の全体像を把握し、目録情報を総合することができ、来年度には目録を刊行する見通しがたてられた。（全体の構成については二〇二〇年度実績報告書参照。）  
　両所蔵機関の研究者の共同研究という形をとったことで、所蔵機関の壁を超えた調査をスムーズに行うことができ、また、惣町絵図の中での本石灰町の状況や本山家の親戚や養子などを介したネットワークなど、長崎在住の研究者との知識の共有は、個別の文書の内容理解に資するところが大きかった。  
　一紙ものが多い史料編纂所購入分史料についても、今後の研究利用の幅が広がることが期待できる。